



伊賀街道の犬塚

津市の市街地から布引山地を越える長野峠を通して伊賀市に至る伊賀街道は、江戸時代の津藩政下、津城と伊賀上野城を結ぶ道として重要な役割を果たしました。現在の国道163号はほぼこの街道に沿って整備されています。

国道163号を伊賀市方面に向かい、路線バスの終点、美里地域の平木から2kmほど先に進むと、平成20年開通の新長野トンネルに至ります。その手前を左折し旧国道を進むと、ほどなく「犬塚」と呼ばれる小さな地蔵堂が現れます。

江戸時代に津藩士・山中^{ためつな}為綱^{せいよう}が著した「勢陽^{せいよう}雑記^{ざっき}」に犬塚が建てられる由来となった伝説が記されています。これによると、中世に美里地域を本拠とした長野氏の家臣が猟犬を連れて狩猟をしていたとき、この付近で家臣にかみつかなばかりに急に吠え出しました。恐れをなした家臣が犬の首を切り捨てたところ、首が飛び上がり近くの木陰に潜んでいた大蛇にかみついたといいます。そして、家臣は自分を守った犬をこの地に塚を築いて手厚く葬り、犬を殺してしまった自分の愚かさを悔いて出家したとされています。

現在の犬塚のお堂は、昭和3年に再建されたもので、堂内には石製の地蔵(写真右)が祭られています。



犬塚の裏手からは江戸時代の面影が残る伊賀街道が続きます。現在は林道として使用するため一部拡幅されていますが、その先はつづら折れの坂道が峠へとつながります。当時は、街道を行き交う人々も犬塚を目にしていたことでしょうか。伊賀街道の散策とともに一度訪ねてみてはいかがでしょうか。



長野峠



犬塚

